

フトシは一步ずつ階段を踏みしめ上っていた。

毎日一步ずつ。たまには二歩登れることもあったが逆に一段後退してしまったりもして。

階段の先には白く輝いた光が見えていた。

順調に上っていた矢先、隣を歩くホソタにそそのかされ階段の途中、踊り場からまっすぐ横に伸びている渡り廊下の方へと進んでいった。

そっち側の階段へ行っては駄目だ！！！！

誰かが忠告した。

先駆けての忠告、教えというのは無視するとあとあと後悔する。

渡り廊下は宙に浮いていた。

下には綺麗に舗装されたアスファルトの道路が走っていた。

黄色い帽子を被った小さな子供が、不思議そうにどういうわけかその渡り廊下をぼんやりながめていた。

夏の昼下がりのことである。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました。